

# ちよつといし話

## ～ 供 養 ～

21年9月1日

秋風と共に<sup>ひがん</sup>お彼岸はやってきます。お盆に続いての供養月です。「先祖を忘れ 我が身をかまい やがて白骨 なる身忘れて」と言う様な方は、たぶん当山の檀信徒にはいらっしやいません。『仏説善悪因果経（菩薩発願修行経）』に現世は過去世において己れが<sup>おのれ</sup>なした行動の結果で決まると説かれ、その中に、「悪いお香を以って<sup>かか</sup>仏を供養すると鼻の病に罹る」とあります。良い香とは化粧等の入った作られた香ではありません。香の中では<sup>きやら</sup>伽羅や<sup>じんこう</sup>沈香が最高級です。伽羅はなかなか手に入りませんが沈香なら容易に求められます。お香は我が身の<sup>さんげ</sup>懺悔にも必要です。毎日が心身健康にして健全なる私でありま<sup>こうくん</sup>す様に仏様に対して、少しでも良質の線香や、お香を<sup>きよ</sup>供えましょう。その香薫が私達の<sup>ろっこん</sup>「六根」、即ち、眼・耳・鼻・舌・身・意・の全てを清めてくれるのです。ですから、良質の「お香」が必要になるのです。又、お経にまつわる話も出ています。例えば、**喜んで写経をする人の来世は賢く生まれ常に人の上に立つ。又、経を読誦讚歎した人の来世は声麗しく聞く人に喜びをもたす。命を永らえようと思えば、父母に孝養を尽くし、寒中には鯉を買い求めて放生してやり、佛様にお供えした米の中から少量を取り煎り米にしてから鳥類に施します。**まだまだ方法は色々あるかと思いますが今回は以上です。逆に、<sup>せつしょう</sup>殺生（物の命）をすれば命を<sup>ちじ</sup>短める事になります。助け助けられしながら此の世は渡って行きましょう。我が身の保身ばかりを考えていますと<sup>しま</sup>終いには見放されていきます。父母に孝養と言っても難しい話ではなく、共に仲良く生活すれば問題ないことです。<sup>ならやまぶしこう</sup>楯山節考のように親を捨てなくては食べられないような村が現存するかしないか知りませんが存在するならばこんな悲しい事は御座いません。政治、政権の良し悪しもありますが、**家族が家系を遵守し順番に年を重ね、そして順番に先祖となり、先を敬い、後を見守り、麗しい家族の在り方を継承していければこんな幸せは無く、正しく末広がりの家運隆昌です。**Luckyを狙うより持続するHappyでendingを迎えたいものです。供養する立場から必ず供養される立場になります。「<sup>そな</sup>備えあれば憂えなし」とか、<sup>あんじん きぎょう</sup>安心起行です。**親が財産を子孫の為にと残すも子孫必ずしも之を守らず。親が子に求めるものと子が親に求めるものが大きく違っているのではなかろうか？後悔の涙に明け暮れ無いよう切に望みます。**

綿 綿（長く続くこと）

善壽界 善入院油掛地藏尊